



開学 70 周年を機に、 さらに飛躍する大学へ 先進的な教育・研究成果を 世界に発信し続けます

名古屋市立大学 郡 健二郎理事長・学長に聴く

郡 健二郎（こおり けんじろう）
1973年3月、大阪大学医学部医学科卒業。77年1月、近畿大学医学部泌尿器科講師、93年9月名古屋市立大学医学部泌尿器科教授、01年4月、同大学医学部附属病院病院長、05年4月同大学医学研究科長・医学部長。14年4月より現職。

名古屋市立大学（本部・名古屋市瑞穂区）は、今年で開学 70 周年を迎えた。2006年に公立大学法人化し、「市民の付託に応え、真理を探究し、人類の幸福に資する実践的な研究成果を世界に発信する誇り高き『知の拠点』」（同大学の大学憲章）を掲げる同大学は、現在では7学部7研究科の総合大学として、さらに進化を続けている。郡理事長・学長に70周年を契機とした次なる飛躍への抱負やコロナ禍への対応などを伺った。（聞き手は、東海財界編集長 塚本隆）

塚本 開学 70 周年おめでとうございます。

郡 ありがとうございます。名古屋市立大学は、1884年開校の名古屋薬学校と1943年開校の名古屋市立女子高等医学専門学校を源流として1950年に生まれました。市民の皆様からは「名市大（めいしだい）」と呼ばれて親しまれています。現在7学部7研究科（4キャンパス）を有する総合大学に発展し、優れた人材の育成、先進的研究成果の発信と共に市民の皆様の健康と福祉の増進を通して社会貢献に努めています。

You Tube に学長メッセージを発信

70周年を機に、さらに魅力ある大学づくりを進めており、各キャンパスの施設整備では、滝子キャンパスの学生会館を皆様からのご寄附によりリニューアルしました。またコロナ禍で本来の形での開催が困難になった市民公開講座

に代わり、市民向けの本を出そうと企画したところ、学内外の教授や医師の方々が執筆に協力してくださり、70周年記念として1年間、シリーズ本「名市大ボックス」をほぼ毎月出版（中日新聞社刊）する予定となりました。第1弾は10月30日発売で「人生100年時代 健康長寿への14の提言」と「コロナ時代をどう生きるか」の2冊です（各1,000円＋税）。12月には新たに2冊を同様に出版予定です。

——コロナ禍の影響や対策は？

郡 まず、学生への経済的支援として、①本学独自の支援金（一人当たり5万円）、②経済的に困窮している受験生に令和3年度の入学検定料（1万7,000円）免除、③コロナ緊急学生支援募金の創設などを行いました。入学式の式典やオリエンテーションも中止せざるを得ず、授業はオンラインと対面式のいわゆるハイブリッド型で行ってきましたが、教育の質を下

げないように、また学生の心のケアに最大限配慮するため、教職員の方々には多大なるご尽力をいただいています。また、ささやかながら、4～6月の間、1～2週間に1回、私から「学生の皆さんへの学長メッセージ」をYouTubeで発信しました。「元気にしてる？」「頑張ってる？」という呼び掛けをする目的でしたが、つい学問的なことも含みがちで、特に入学したばかりの1年生に向けて、困難な状況の中でも前向きに頑張ってほしいとの思いを伝えました。

救急・災害医療センターの創設

——健康・福祉をはじめ名市大が地域に果たす役割は大きいと思います。

郡 本学は地域貢献を教育・研究と並んで重要な使命と位置づけ、諸課題の解決に努めています。日本経済新聞社の「大学の地域貢献度に関する全国調査2019」では東海地域で第1位、全国第5位の評価を受けました。またイギリスの高等教育専門誌（Times Higher Education）が発表した、大学のSDGsに関する取り組みを評価する「大学インパクトランキング」ではSDG3「すべての人に健康と福祉を」で世界16位、国内では2年連続1位でした。

また東海地域は南海トラフ巨大地震が危惧されていますが、名市大病院は災害拠点病院としての役割を担っており、現在「救急・災害医療センター」の整備を進めています。延床面積約28,000㎡、8階建てで、令和7年度完成予定です。現在の同病院の敷地内に建設予定ですが、完成すると日本最大級の救急・災害医療センターになります。

現在、「断らない救急」という方針により年間約7,000台の救急車を800㎡の限られた施設で受け入れています。それを拡張して免震構造にすることで、大地震時にも電力などのエネルギーが停止しないよう確保し、手術も中断しないで済むよう設備も含め中身もトップレベルになります。

市立医療センターの大学病院化も

——名古屋市立東部医療センター（名古屋市千種区）と西部医療センター（名古屋市北区）の大学病院化が予定されていますね。

郡 2021年4月にそれら2つの医療センターは、医学部附属の病院になる予定です。病床数は、現附属病院の800床、東部医療センター、西部医療センターの各約500床を合わせ、3病院で合計約1,800床となり、全国の国公立大学病院の中では最大規模となります。また現附属病院は高度先進医療、東部は心臓・脳血管疾患の治療、西部は小児・周産期医療の分野で強みを持っており、その長所をさらに強化し専門性を高めます。患者さんはより専門性が高い病院で治療を受けることができるようになります。若い医師を含め、優れた人材が全国から集まってきます。経営的には一体的運営で人手不足の解消や、薬品・医療機器の計画的な共同購入による経費削減を実現。収益増になれば設備投資が進み、先端機器が揃い、そこにはより優秀な医師が集まってくるという「医療における好循環」が起こってきます。そのために3つの大学病院が必要なのです。

社会人に「学び直し」の機会を提供

——進化型実務家教員養成プログラム（TEEP）を実施中とお聞きしました。

郡 TEEPは、社会人にはより高度な学問を学ぶリカレント（学び直し教育）の機会を提供し、学部生には最先端の実務と学問を結びつけたアクティブラーニング環境を創出し、さらに彼らを指導する教員を養成するプログラムです。これは文部科学省の「持続的な産学共同人材養成システム構築事業」のプログラムとして選定され、昨年度から5年間の予定で行われており、来年度から受講生を受け入れる予定です。産学共同事業ですが、担当される先生方のモチベーションも考え方のレベルも高く、皆さん熱心です。このプログラムは本学の新たな目玉になることでしょう。